

宗教倫理学会公開講演会

技術史的観点からみた AIの実情と神職の事情

講師

才脇直樹氏

奈良女子大学副学長。同大研究院工学系 教授（工博）、および、大阪大学大学院基礎工学研究科 石黒研究室特任教授。人間情報学会設立発起人理事、E-Textile国際標準化WG主査他情報系の学会を中心に活動。IEEE LifeTech 2019 Excellent Paper Award、第21回ヒューマンインタフェース学会論文賞（2021年度）等を受賞。ウェアラブル技術による健康見守り等ヒューマンインタフェース、AI、IoTといった情報工学の専門家であり神職でもある。著書は『感性情報学—感じる・楽しむ・創り出す 感性的ヒューマンインタフェース最前線』（共著、工作舎、2004年）、『スマートテキスタイルの開発と応用』（共著、シーエムシー出版、2019年）他。

2026年 3月 7日 土

時間 14:00-16:00（開場13:30）

会場 龍谷大学大宮キャンパス 清和館3階ホール
京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1（京都駅下車徒歩10分）

コメンテーター 小田淑子氏（元関西大学教授）

司会 那須英勝氏（研究プロジェクト委員長・龍谷大学教授）

協力 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門
人間・科学・宗教オープンリサーチセンター

入場無料・事前申込不要

お問い合わせ

宗教倫理学会事務局



<http://www.jare.jp>



staffs@jare.jp

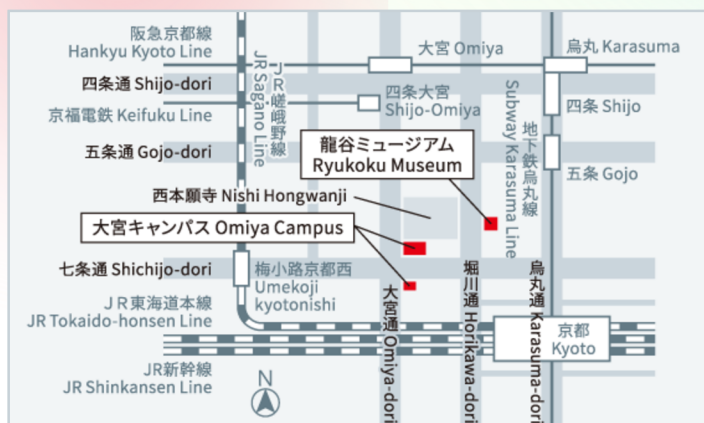
宗教倫理学会公開講演会

技術史的観点からみた AIの実情と神職の事情

講演要旨

近年、AIおよびその関連技術は大きな注目を集めているが、過去には実用性に乏しい技術の象徴とみなされ、「AI」という語自体が忌避されたいわゆる冬の時代が幾度となく存在した。本講演では、そうした評価の変遷と紆余曲折を経て、AIがいかにして再び関心の中心へと浮上してきたのかを、技術史的観点から映像資料等を交えつつ概説する。あわせて、講演者自身が神職という立場にあることが直接技術的な意味でのAI研究と結びつくものではないにせよ、その立場ゆえに、神道をはじめとする既存宗教とAIとの関係、さらにはAIといかに向き合うべきかを多角的に問い直す機会に恵まれてきた（苦しんできた？）経験をご紹介したい。これらの問題提起を通じて、AIを手がかりに人間および宗教理解をより深化させられるような議論を、会場の皆様とご一緒できるよう目指したい。

龍谷大学大宮学舎へのアクセス



京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1
TEL: 075-343-3311（代表）

- 「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）
- 阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分（市バス約5分）
- アクセスマップ：https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_omiya.html
- キャンパスマップ：https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/omiya.html